



特集 日中活動の充実



「陶芸で生活に彩り」
(第2大島恵の園)

トーク ワールド・カフェ

若い職員と私や本部長との対話を目的として2年前から始めたダイアログ研修を、今年度はワールド・カフェ方式で行っています。この方式の特徴は、お茶を飲み、お菓子をつまみながら気軽に議論し、テーマ毎にテーブルを変わって違うメンバーとも顔を合わせ、考察を深めていくところ。

身近なテーマから話し合いを始め、今年度の大きなテーマである「武蔵野会第4期中期計画についての提言と私たちの決意」をまとめますが、最後にそのレポートをもらう前には、私も本部長も、みんなと同じ立場で議論に参加します。採用試験の面接で顔を覚えている職員の皆さんの成長ぶりや知らなかった一面がうかがえ、とても楽しい時間です。

武蔵野会では既に、各地区において、施設長・管理職から役職、一般職員までが法人理念への想いを語り継ぐ、「理念の語り」や、実践事例報告会とその後の交流会など、職員相互のコミュニケーションを深め、より良い支援に結びつける種々の取り組みを行っています。また、実践事例報告会と交流会、施設行事には各地区担当の理事にもご参加をいただいたり、監事に各施設の訪問をしていただくなど、役員と職員との交流も活発です。

社会福祉法人のあり方が問われている現在、社会福祉法人には、高い社会的使命を果たし続けていくための強くてしなやかな組織風土づくりが求められています。そのような目的に向けても、ワールド・カフェ方式の研修は、参加者の一体感や議論の活性化をもたらす効果などがあり、有効です。

ダイアログ研修のほか、今年度の内定者研修や一部の地区研修にも取り入れたワールド・カフェ方式の研修が、従来からの取り組みと併せ、武蔵野会の組織風土づくりに積極的に生かされることを期待しています。

特集

日中活動の充実

武蔵野会を利用する人々が望む生活、その人にあつた生活の創造を支援するのは、支援者にとつて非常に重要かつ困難で課題です。いわゆる生活の糧としての働くことが自己実現につながるということだけでは足りないからで

す。個々の利用者にとつて自己実現とは何かを考えながら、地域とネットワークを結びながら実現していく活動の提供を考えています。当法人を利用されている方々に、現在どういう支援を行っているかを紹介します。

大泉町福祉園

園芸、陶芸活動で地域交流と独自の作品づくり

一昨年からは始めた区民農園での園芸活動が軌道に乗ってきました。トマトやナス、キュウリなど定番の夏野菜のほか、今年はお近所からいただいたブロッコリーやキャベツの栽培にも挑戦しました。そしてこれからは、11月1日に開催する「ふれあいまつり」での販売に向けて、ねりま大根を育てていく計画です。園芸活動では農作物の収穫がもつとも楽しみな活動の一つですが、それと同時に近隣の方々との農作業を通じたやりとりが何よりも楽しみな活動となっています。小さな農園ですが、地域の皆さんとの豊かな交流の拠点に育てていきたいと思ひます。

農園のみならず、園庭などを利用したプランターでの草花の栽培は小規模ではありますが、町会やソフトボール協会の皆様にご寄付いただいた花々を丁寧に育てています。また、建物南面に展開するゴーヤのカーテンは地域の夏の風物詩になりつつあり、今年もたくさんさんのゴーヤ料理が給食の献立に登場しました。これも利用者の皆さんが、暑い盛り毎日水やりを精を出してくれた成果です。

さらに、今年度は陶芸活動を復活させるための準備を進めています。区直営のころからの長い間、おそらく十数年間使われることになかった陶芸窯ですが、専門業者による点検でまだまだ十分に使えることがわかりました。せっかくなので設備を有効活用するため、そして活動プログラムの充実のための



事前に職員は指導を受けてから利用者へ提供していく

陶芸復活です。ただし、大多数の職員が陶芸の経験が全くないため、まずは職員の研修から始めています。ある程度完成したプログラムとして利用者へ提供するにはまだまだ練習が必要ですが、すでに電動ろくろに興味を持つ利用者や、過去に陶芸活動に親しんでいた利用者も居り、一人ひとりの利用者

が望む生活、その人にあつた生活の創造を支援するのは、支援者にとつて非常に重要かつ困難で課題です。いわゆる生活の糧としての働くことが自己実現につながるということだけでは足りないからで

の個性に合わせた活動になるよう、利用者に教わりながらみんなで少しずつ勉強していきたいと思ひます。

当園が目指す陶芸活動は、お皿やティーカップなどの実用品を作る流れとは異なり、利用者の素材で純粋な感性を、粘土を通して造形美に昇華させ、作品を見て触れた人がその作者の透明な心に感動するような芸術作品の製作をめざしたいと考えています。どのような芸術品が生まれるか、今から楽しみにしています。

東堀切くすのき園

感性を活かした絵画とダンス

「これ何に見える?」「私はピンクのいるかに見える」「ピンクの雲じゃない?」くすのき園の廊下ではしばしばこのような会話が聞かれます。

見ていたのは絵画活動で描かれた利用者の絵です。活動で描かれた絵は、くすのき園の至る所に張り出されており、白鳥福祉館のご協力ではなちやyaに飾っていただいたり、今年度のくすのき祭のポスターにもなっています。その特

性と感性を活かした作品群は、一つとして同じ物はありませぬ。「あるがままの気持ちを応援したい気持ちで、一緒に寄り添いながら」をコンセプトに週1回行われる絵画活動では、利用者一人ひとりに合わせた活動提供を行っています。ずっと同じ色を使っているも、1本線を引いただけでも、「今日は描きたくない」でも、それがその方のその時の気持ちで、その時に表したかったことなのだと、そのすべてを受け入れ、継続することで、見えづらかった利用者の気持ちが少しずつ見えてくるように感じます。

「上手上手!そのダンス、とてもいいですよ!」リズムに乗せて聞こえてくるのはダンス活動でのひとコマです。くすのき園では水曜日、プロのパフォーマーを中心にダンス活動を行っています。利用者の皆さんの好きな曲やリクエストのあった曲聞き慣れた曲に合わせて、思い思いのダンスをしています。最初はそれぞれが個性豊かなダンスを行っています。気づけば大きな一つの輪を作り、みんな合わせて

水曜日

「上手上手!そのダンス、とてもいいですよ!」

リズムに乗せて聞こえてくるのはダンス活動でのひとコマです。くすのき園では水曜日、プロのパフォーマーを中心にダンス活動を行っています。利用者の皆さんの好きな曲やリクエストのあった曲聞き慣れた曲に合わせて、思い思いのダンスをしています。最初はそれぞれが個性豊かなダンスを行っています。気づけば大きな一つの輪を作り、みんな合わせて



プロのパフォーマーに触発され一体感のあるダンスへと変化する

ンスをしていることも…。普段、個別活動の多い皆さんが自然に一つの輪を作るその一体感は、何にも例えようがありません。

このダンス活動も絵画活動と同じように答えや見本がありません。職員は利用者のダンスを見て、振り付けを取り入れます。一人ひとりがパフォーマーで、演出家なのです。

絵画とダンス。静と動。一見両極端に見える2つの活動ですが、共通して言えることは利用者がお手本になることもあれば、教えてくれることもあります。利用者主体の活動を大切に、これらの支援を進めていき、新たな表情を感じていきたいと思ひます。

むさしの武蔵野

「今ある幸せ、これからの幸せ」を求めて!

今年の4月「障害程度区分」から「障害支援区分」に支援決定手続きの方法が改正されました。この意図するところは、障害者の多様な特性や心身の状態に応じて必要とされる標準的な支援の度合いを総合的に示し、本当に本人が望んでいる暮らしを実現することです。そのために、様々な支援をコーディネートすることが求められます。福祉サービスを利用する方は、支給決定や更新の手続きの際に、毎回、必要な支援の内容を具体的に網羅した「ケアプラン(サービス等利用計画)」を作成し、ご自身の意思を尊重して、地域資源や福祉・医療サービスを組み合わせて利用することが、とても大切になってきます。

ケアの必要な方へのケアプランづくりは、いまある地域資源や福祉・医療サービスを結びつけていくだけのもので十分とはいえませんが、むしろ、その人の人生に「感動」を提供できるように、何をしたらよいかを優先して考え、時には現在そこにはない地域資源を、利用者と一緒に創り出すことも必要になります。

「福祉」という言葉は、「福」という字も「祉」という字も、「幸せ」や「豊かさ」という意味があります。ケアプランを一つの例にあげると、必要な福祉・医療などの地域資源を結びつけていくという視点で作成するのではなく、人生最後の瞬間まで感動を味わえるよう、「あー、生きていてよかった」と思えるような人生を全うできるように、地域資源に結びつけていくもしくは創りだしていく、という視点で私は作成するよう心がけています。「今ある幸せ、これから幸せ」を大切に作るケアプランを作成したいという姿勢は、これからの暮らしに必要だと感じています。

昨今、血縁や地縁などによるネットワークの弱体化や、ネットワークからの孤立が生じている中、一人暮らしの高齢者などが身体機能の低下により日常生活に支障を来した場合や、障がいを持つ子供のいる家庭などで親が高齢化した場合に、生活上の問題が複合し、深刻化する事例が多々みられます。これらに対応するため、地域包括ケアシステムの構築が急がれます。当法人は、社会福祉を目的とする事業の主たる担い手としての社会的責任を果たすため、地域社会の一員として、より積極的に市民の「幸せ」を追求していくことが使命と考えて行動していきます。

世田谷区立駒沢生活実習所
施設長 宮原康輔

生きがい重視の活動を展開

さくら学園の日中活動は利用者の課題にあわせ、日中活動班と作業班の2つの形態をとっています。日中活動班はより生活実習所に近く介護や活動を中心に、作業班は福祉作業所のように作業を中心に行うというものです。

日中活動班は、4班あり(作業班に参加できない人)寮毎に分かれ活動をしています。活動は、各寮の利用者の個別ニーズに合わせて、寮の独自性ある活動となっています。主な内容は、散歩・リハビリ・ラジオ体操等の軽運動、創作活動、花壇や菜園作り等の園芸活動です。創作活動では、季節にあわせちぎり絵や壁飾り作りや、七夕の短冊作りなど一年の季節のうつりかわりや行事を楽しめます。作業班は、陶芸班・紙漉班・農園芸班・織物班と4つあります。4つの寮から73名の方が、自分の希望する班に所属しています。コンセプトは手作り。一つひとつ大切に作られた作品を、唯一無二のものとして永くお手元でご利用



手づくり作品の委託販売は上々の売り上げです

また、さくら学園の方たちの平均年齢は56歳と高齢化が進んでいますが、その中でも作業班に所属する方たちの平均年齢は60歳に近づいています。昭和20年代生まれの働き者の方たちを中心に、ゆったりと自分たちのペースで作業が出来るようにしています。そのため、生産性を求める作業ではなく、生きがいを重視して自分の行いたい作業を本人のペースに合わせて無理のないものとなっています。利用者のなかには、作業が楽しみで、時間前から作業班の玄関で待っている方もいらっしゃいます。また、作業中、適度に身体を動かす事は、利用者の心身の健康維持

にも繋がっています。それでは、各作業班の活動紹介をします。

織物班は、綿糸を自然素材中心の染料で染色し、利用者の方がコースター、マット、シヨール等、一週間ほどかけて織り上げます。それぞれ得意な作品を持っていて、人によっては自分でデザインする方もいます。さらに、織る人によって、織りの硬さや緻密さなど個性が出ますが、仕上がった作品は、手織りの持つやらかさと優しい風合いを備えています。



熟練の技が光る織物班

陶芸班は、それぞれ自分の得意な形の器を粘土で作っています。なかには、一作品一作品、形を変えて作る方もいて、まさに唯一無二です。品物は、マグカップ・お

皿・ご飯茶碗などの定番のものが中心ですが、今は富士山の世界文化遺産登録を記念して作った富士山型の箸置き等が大ヒット中です。農園芸班は、畑とビニールハウスで農薬を使わない野菜の栽培をしています。農薬を使用していないため、キャベツやレタスの葉物に付いた虫食い穴は、無農薬野菜の勲章です。収穫した野菜は、その日のうちに学園の無人販売所に並べますので、短時間で売り切れしてしまうほどです。

紙漉班は、牛乳パックからの再生紙づくりです。和紙風の紙に絵や文字を書いて、カレンダーに仕上げます。数多くは作れませんが、月ごとの絵だけではなく、日にちまで一字一字手書きしたカレンダーは、とても味があり人気が高く職員もなかなか手に入りません。その他、ぼち袋、祝儀袋、箸袋セツト等を作っています。

出来上がった作品は、御殿場市内の観光施設や静岡・沼津・御殿場などの福祉の店等で委託販売しています。特に、地域のイベント等で販売をしますと、手作りの暖かな味わいを喜んで手にとって下さる方が多く、売上げも上々です。

世田谷区立駒沢生活実習所 信頼関係を築くトータルリラクゼーション

駒沢生活実習所では、今後想定される利用者の高齢化や重度重複障害者の受け入れを見据えて、2年前から活動に駒沢生活実習所オリジナル「トータルリラクゼーション」を取り入れています。

トータルリラクゼーションとは、光を使ったスヌーズレン、アロマオイルを使ったアロママッサージやタクティールを組み合わせた内容で、光、音、香り、振動、温度、触覚を自由に感じてくつろいだり、マッサージを受ける利用者と施術する職員とのコミュニケーションを通して、不安な感情を軽減したり、お互いに穏やかで落ちついた気持ちになって信頼関係を築くことを目的としています。

部屋を薄明かりにして、ディフューザーでアロマの香りを焚き、ヒーリング音楽を流します。2〜3名の利用者ひとりずつにフットバスを用意し、足浴をしながら手や足のマッサージを施します。多くの利用者が、力を抜いてマッサー



ディフューザー、アロマオイル、ヒーリング音楽は必須アイテム

ジを受けていて、マッサージされている手足や職員の顔をじっと見ていたり、心地よくなって眠る方もいらっしゃいます。

2年前、トータルリラクゼーションをはじめた頃には、参加出来ない利用者もいました。利用者の中には、明るい部屋が好きな方、音楽が無いほうが良い方、マッサージよりも光を見ているのが好きな方、多人数の中で受けた方が落ち着いて受けられる方など、いろいろな方がいます。やり方はひとつでは無いので、それぞれの利用者が心地よく感じられる方法を探して実施することで、今では43名全員が参加しています。利用者の皆さんに「トータルリラクゼーションの時間です」と伝えると「マッサージやりたい」と言う人や、す

ぐに靴下を脱いで待っている人などがいて、皆さん楽しみにしている様子が伝わってきます。

職員からも「今日〇〇さんはいい顔をしていた」「マッサージをする私も気持ち良かった」といった感想が出ていて、トータルリラクゼーションを活動に取り入れるから、利用者との距離が縮まったと実感しています。今では利用者、職員がお互いリラックスしながらコミュニケーションがとれる大切な時間となっています。

活動は、各グループで週1回実施している他、月に1度、アロマの有資格者が5〜6名ボランティアで来所し、利用者がアロママッサージを受けたり、職員がマッサージのやり方を習ったりしています。アロマボランティアの中には、法人の被災地ボランティアパスパツクの参加を希望され、被災地の



マッサージは一番の楽しみ

皆さんにアロママッサージをしていただいた事もありました。現地では大変喜ばれたと聞いています。これからも、アロマボランティアの方達の助言を受けながら、活動を充実させていく予定です。駒沢生活実習所でアロマの香り人気ベスト3は、次の通りです。

- ・スイートオレンジ(効能:気分を明るく、リフレッシュしてくれます)
- ・グレープフルーツ(効能:緊張感から心を解放してくれます)
- ・ラベンダー(効能:不安な気持ちやストレスを穏やかにしてくれます)

皆様もアロマの香りで気持ちをリフレッシュしてみたいかがでしようか。



リラックスしながら対話を楽しむ

来年4月開設

文京総合福祉センター

武蔵野会では現在、平成27年4月の開設に向けて旧第五中学校校舎跡地（文京区小日向二丁目16番）に建設中の文京総合福祉センター内の福祉施設の運営を行います。本センターは延べ床面積約7千㎡、地下1階から地上4階建ての鉄筋コンクリート造りの複合施設です。周囲は、住宅街で地下鉄丸ノ内線「江戸川橋駅」から徒歩5分という至近にあり、文字通り都市型施設といえます。

武蔵野会は、文京総合福祉センター内の障害者支援施設リアン文京をはじめ約20事業を展開する多機能型施設となります。運営形態は、文京区と賃貸借契約を結び、民立民営で行い、リアン文京には、知的・身体障害者の方が40名ほど入所します。

リアン文京の「リアン」は仏語

最低賃金保障の雇用型の就労支援を行います。

武蔵野会では、平成23年以來の開設運営となります。事業も約20事業におよび、これを一体的に運営していくようとしています。就労継続支援A型事業や自立訓練の生活訓練事業、子供ショートステイ等の武蔵野会ではじめての事業もあり、地域の期待も高まっています。

福祉に向き合う決意

採用内定者の集い

9月3日に、ベルサール飯田橋で、27年度4月採用予定の内定者研修を行いました。現時点で採用が内定している36名の内31名が参加して、10時から16時30分までの研修、その後の懇親会と1日を通して充実した内容でした。

午前中は名刺交換やプチ自慢の発表などのワークを行い、内定同士がお互いを知り午後の研修につなぎました。昼休みを利用して、江戸川橋まで移動し、27年度4月から運営を開始するリアン文京（文京総合福祉センター内）を見学しました。

で「絆」を意味します。法人内部で検討し、法人の基本理念を基にリアン文京の利用者をはじめとする関係者のみなさんとの絆を大切にしていこうとの決意と願いが込められています。

文京総合福祉センター内の施設を紹介すると1階の正面玄関を入って右側に利用者の就労の場となる喫茶コーナー「Caféぶんぶん」と売店「BUNBUNストア」があり、左側に基幹型相談支援事業所があります。正面奥にリアン文京の事務所、厨房、生活介



完成予想図

建設中で外観しか分からなかったですが、その大きさと地域の様子には垣間見れたと思います。飯田橋に戻り、武蔵野会の歴史を学んだ後、この研修の目玉となるワールド・カフェ方式を行いました。

今回は「私の夢」「私の役割」「私の求める職員像」のテーマで行いました。参加者ができる限り多くの人と自由な語り合いをし、有意義な研修だったと思います。その後、所属の施設長や役員、理事長や本部職員も参加して行った懇親会では、内定者が生き生きとした顔で語り合い、研修の効果を感

自己実現に向けた意欲

ダイアログ研修

9月5日に今年度初のダイアログ研修を浜松町駅近くの研修室フクラシアで行いました。今年度は経験年数ごとに行うのでは無く、就職後2年から6年までの職員全員を混合して20人程度のグループに分けて行います。時間も昨年度までの午後だけでは無く1日を通して行い、理事長、本部長も同じ土俵で話し合う時間を長く設定し

護事業（45名）、就労継続支援A型事業（10名）、就労継続支援B型事業（10名）の4つの活動室が並びます。

2階・3階西側は、リアン文京の居住スペースで、結（ゆい）、和（なごみ）、連（れん）、絆（きずな）の4つの生活ユニットに分かれます。

2階の東側は、自立訓練事業の生活訓練（9名）、機能訓練（6名）の機能訓練室や専門療法室があり、重症心身障害者並びに地域活動センター事業（10名）の活動室が入ります。

3階の東側は、放課後等デイサービス（20名）、子供ショートステイ室（3名）、短期入所ユニット（10名）、子育てひろば江戸川橋が並びます。4階は老人福祉センターA型と地域推進室を持つ文京総合センター江戸川橋という構造になっています。

リアン文京では、重度の障害者受け入れを積極的に進めます。入所・短期、生活介護では、医療的ケアや重症心身障害者通所事業（5名）を行います。また、自立支援や就労支援を重視し、入所支援と自立訓練事業の一体的運営や

ました。

「採用内定者の集い」でも行ったワールド・カフェ方式で、午前中は、職員だけで、テーマは「仕事で充実感や喜びを感じる時間」「利用者の幸せって何だろう」「私たちの目指す職員像、武蔵野会の職員が主体的に参画し協働するチームになるには」で話し合いました。

午後からは、理事長、本部長が参加し、少しテーマが抽象的で難しくなりました。「武蔵野会の社会貢献とは。私たちにどんな役割があるか」「武蔵野会は何を行うべきか」「武蔵野会の中長期計画への提言」等で、最後はみんなだまじめに行いました。

ワールド・カフェ終了後は、本部長から理念経営の話があり、理事長からの研修を総括した話で研修が終了しました。

参加職員は個々に理事長への提言をまとめて、理事長に提出して帰途につきました。終了後の感想では、年代、種別の違った多くの職員との話ができたことや、理事長、本部長と同じ立場で話せたことへの言及が多く見られました。



烏山福祉作業所

7月31日と8月1日は施設公開でした。両日とも気温超34度を超える猛暑の中、77名の来場者がありました。特別支援学校の生徒さんは真剣な表情で様々な作業の見学や作業体験をされていました。

九品仏生活実習所

本園全館の給排水管改修工事が9月12日から来年の2月末頃までの予定で、利用者へサービスを提供しながら改修が始まっています。工事期間中に自家用車にて来所される場合は、事前に連絡をお願いします。

すぎな愛育園

9月3日に東京都信用組合協会から寄付金を戴きました。信用組合業界と（株）オリエントコーポレーション共催の「しんくみピーターパンカード」の利用額の一部を社会福祉の向上にと今回は都内3施設に贈呈されました。

光が丘福祉園

毎年恒例の夏祭りを「ひかりまつり」と名称を変更して7月26日に開催しました。イベントには練馬区の公式のアニメキャラクターの「ねり丸」を招き好評でした。利用者も含め地域の方が300名以上来園されました。

練馬福祉園

当園のログハウスがリサイクルショップとして復活します。職員のDIYで、白と茶のおしゃれなアンティーク調の空間に改装。現在商品をセレクト中で、地域交流の場となるよう10月にはリニューアルオープンしています。

白鳥福祉館

当館では年5回、土曜登館を実施しています。普段は作業中心の活動ですが、この日はレクリエーション中心の活動を行っています。今回は10月に行われる「お茶亀まつり」に飾る大漁旗を利用者の絵を使い制作しました。

武蔵野児童学園

夏休み、旅行や登山を通して一回り大きくなった子どもたちが、二期を迎えました。不忍ライオンズクラブ様より、最新の電子辞書をご寄附いただき、中高生は進学や資格取得に、いよいよ本腰を入れて取り組みます。

西水元あやめ園

夏の風物詩である『流しそうめん』を行いました。竹から流れてくる『そうめん』を皆さん、とても上手に箸ですくわれていました。何度も参加される方もいたり、普段よりも食事の進みも良く、モリモリと召し上がっていました。利用者の方々の顔から溢れ出る笑顔と歓声で、心温まるひと時でした。

お知らせコーナー

10月

- 1日 ダイアログ研修 (ベルサール神田)
- 4日 平成27年度 法人採用試験
希望の里祭り (希望の里)
- 11日 どんどこ祭り (駒沢生活実習所)
- 15日 施設長研修、施設長会議
- 18日 第31回ふれあい運動会 (八王子地区)
- 19日 人材センター合同採用試験 法人説明会
- 24日 法人説明会(採用) えみふる
- 24日 ダイアログ研修 (ベルサール神田)
- 29日 ダイアログ研修 (ベルサール神田)

11月

- 1日 ふれあいまつり (大泉町福祉園)
- 6日 ダイアログ研修 (ベルサール芝公園)
- 8日 ふじもり祭 (八王子福祉作業所)
- 11日 ダイアログ研修 (ベルサール芝公園)
- 15日 武蔵野会セミナー (星陵会館)
- 26日 ダイアログ研修 (ベルサール芝公園)
- 27日 施設公開 (大泉町福祉園)

12月

- 2日 ダイアログ研修 (ベルサール芝公園)
- 7日 ふれあいコンサート (八王子市身障センター)
- 11日 ダイアログ研修 (ベルサール芝公園)
- 13日 映画会「架け橋 きこえなかった3.11」
(八王子市身障センター)
- 17日 施設長研修、施設長会議
- 19日 ダイアログ研修 (ベルサール芝公園)

平成26年度・武蔵野会セミナー

『地域福祉と障害者の権利擁護』

日時 11月15日(土) 12:30~16:30
会場 星陵会館ホール(千代田区永田町2-16-2)
地下鉄「永田町」徒歩3分
参加費 無料

プログラム

12:30 開会挨拶

12:40~13:40 基調講演

テーマ:「地域福祉の推進と福祉教育」

講師: 原田正樹氏(日本福祉大学 学長補佐)

14:00~16:30 シンポジウム(鼎談)

テーマ:「地域福祉から、障害者権利条約のもと
制定された障害者差別解消法等を受けて
私たちがなすべきことを考える」

講師: 高木美智代氏(衆議院議員)

堀江まゆみ氏(白梅学園大学子ども学部教授)

原田 正樹氏



しふおんのラスク 200円〜

工房 a s i に「しふおんのラスク」が仲間入りしました。
和三盆、抹茶、紅茶、チョコのシフォンケーキをサクサクのラスクにしています。今後も新しい味が登場します、ご期待ください。プチギフトとしてもお作りいたしますので是非ご相談ください。

烏山福祉作業所

「しふおんのラスク」

ショーケース

自主生産品紹介

秋の新品

『季節の素材の』

ロールケーキ

八王子福祉作業所

秋の味覚、栗のロールケーキです。米粉入りのもっちり生地、栗をふんだんに入れ、甘さ控えめに仕上げました。作りたてのもっとも美味しいものを食べていただきたいので、注文生産となります。ご注文をお待ちしています。



1ロール600円、1カット180円

武蔵野会後援会

社会福祉法人武蔵野会が経営する24施設と6つのグループホームの利用者のために、より良い環境や施設の充実・施設の円滑な運営などを、物心両面から支える組織として、武蔵野会後援会があります。皆様のご理解とご協力により、会の拡大をはかり、法人の運営基盤の確立を応援していますので、ご協力をお願い申し上げます。

〒193-0931

東京都八王子市台町 1-19-3

電話・FAX 042-626-9772